

【社会科教育論】

第1回VTR分析の課題解答例

■ 話の展開とその伝え方が異なる（方法論）…向本 光

「プロジェクトX」は番組ホームページにもあるように、「無名の日本人」を主人公とする「組織と群像の知られざる物語」である。この表現からもうかがえるように、「プロジェクトX」では、対象となる人や組織（今回は宅急便）がどのような背景で発足、その成長の過程で何度もあらわれる壁をどのように超えてきたかを、ドラマのようなストーリーの形で表現している。社会科の授業として捉えた場合、今回の内容では、関西の運送会社「ヤマト運輸」が、倒産の危機という壁、営業開始直後の注文の少なさという壁、営業免許の申請拒否という壁など、さまざまな壁を、登場人物たちが工夫をこらし越えて行く姿が音楽や演出を駆使し、臨場感あふれる形で表現、見ているものを引き込むと共に、「仲間のおかげ」といっている社長をとりあげることにより、見ているものを感動させ、「挑戦する日本人」を取り上げることに、見ているものに、日本人としての国民的資質を育むことを可能としている。

対して「クローズアップ現代」では、自分たちの身近にある事例をとりあげ（今回はイギリスの就職支援）、その事例を具体的な例を（今回でいうと運営側のマーチンハギンスさんと失業者のウィリアムさん）用いながら、見ている側がより深く仕組みを理解できるように構成されている。クローズアップ現代は、プロジェクトXのように、音楽や演出を駆使した表現はされておらず、パソコンで作った図を利用することにより、事例の仕組みがより分かりやすく伝わるよう工夫がなされている。

両者を一言で表すならば、「プロジェクトX」は「感情に訴えかけている」のに対し、「クローズアップ現代」は、「思考に訴えかけている」といえるのではないだろうか。

■ 登場人物の取扱いが異なる（内容論）…加藤 健司

今回の授業で2つの番組を視聴して、内容の伝え方に私は共通点と相違点をそれぞれ見出した。まず、共通点として挙げることができるのは両番組とも1人の人物を取り上げ、その人物の日常や生き方を追うことによって視聴者に内容を伝えようとしている点である。

「クローズアップ現代」では、「ハギンズ」という1人の英国人の日常に密着し、その仕事内容に迫ることでイギリスが失業者半減を達成した仕組みを解明しようとしている。同様に「プロジェクトX」でも、「加藤房男」という人物の仕事を追っていくことでヤマト運輸が戦後最大の物流革命を起こした軌跡を辿っている。番組の時間や内容構成は違えども1人の人物をフィーチャーするという点では両番組の基本的な番組構成は共通する。

一方、相違点として挙げられるのが、その人物から番組が視聴者に伝えたいテーマへのアプローチ方法である。「クローズアップ現代」では、ハギンズの日常を追いながら“働くための福祉”というキーワードのもと、ワーキングリンクという制度を政府や失業者との関係性を明らかにしながら説明している。このように視聴者に伝えたい内容をシステムや仕組みを丁寧に解説することで客観的に伝えている。それに対して「プロジェクトX」

は加藤房男の人生を、主観的かつ感動的に追っていくことで、ヤマト運輸が経験した苦悩や成功を疑似体験的に感じ、番組が伝えたいテーマを理解させている。この方法は、登場人物に感情移入しやすい構成となっているため、視聴者の感情を揺さぶり感動的な内容である。

しかし、この方法を教育として当てはめる場合、番組（＝教師）が視聴者（＝子供）に伝える内容（＝社会の見方・考え方）は一つの視点から見たものであり、その見方によって生き方を方向付けるものとなっている。その結果、子供たちの精神は統制され、必然的に価値の注入、思想形成につながってしまうのである。

■ 形成したい資質・能力が違う（目標論）…坂本 泰貴

私は、視聴した2番組を子どもに形成したい資質、つまり目標論の見地から考察する。

まず、クローズアップ現代では「比較考察」がキーワードになると考える。番組内容は、イギリスの失業対策であった。具体的にいうと、ワーキングリンクという会社が再就職を斡旋し、成功すれば国からお金が配当され、失敗すれば当会社の損失になるというものであった。また、失業者を受け入れた会社も一定の補助金がでるという制度だった。しかし、このようなイギリスの制度を紹介する前ふりに、近年の日本における失業率の問題に触れていた部分があったように思う。つまり、子どもたちにイギリスの制度を紹介し、それを土台に比較しながら自分たちが暮らしている日本の失業問題について見直すという目標があったに違いないだろうと考える。

次に、プロジェクトXでは「キャリア」がキーワードになると考える。番組の展開は、一貫してある会社が倒産から免れ、復活のためにいろいろな対策で試行錯誤する社長、社員の感動的なストーリーであった。私は、この番組を子供たちが視聴すれば、子供たちは「なぜ、そこまでして働くのか」、「なぜ、そこまで会社に尽くすのか」などといった疑問を抱くだろうと考える。このことを想定していれば、安易に日本の三大国民義務の1つである「勤労の義務」などにつなげることができると考える。しかし、近年、教育界で話題でもあるキャリア教育につなげることができると考える。簡潔に言えば、キャリア教育とは子どもたち一人ひとりの職業観、勤労観を育てる教育であるといえる。この番組には、子供たちに社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を見つけてほしいという願いがあったように考える。つまり、子供たちに働く意義、やりがいを感じとらせるという目標があったはずだと考える。

今回視聴した2番組は、いずれも経済的分野であった。しかし、一方は制度的なことであり、他方は働くことを考えさせるものであったと考える。

■ 社会の捉え方&子どもの立ち位置が異なる（分析 VS 共感）…仲下 諒

「クローズアップ現代」と「プロジェクトX」の共通点はどちらも現実社会で起きている問題（ここでは失業と倒産）に焦点を当て、国や企業あるいは個人がどのようにこの問題に対処し、解決の方向に導いていくのかを教えようとしていることである。

「クローズアップ現代」の伝え方はワーキングリンク、イギリス政府、失業者の関係を図

に表して説明し、一步引いた視点から制度を教えようとしている。ワーキングリンクの活動内容も最初に①カウンセリング②投資③アフターケアがあることを明示し、それから順を追って1つ1つを説明する形式を採っている。そしてワーキングリンクの活動が成功したことを示すが、必ずしも成功するとは限らないことを押さえている。視聴者側は失業者救済がどのような仕組みで行われており、企業はどのような手法で救済活動を行っているのかという社会制度の仕組みをある程度客観的に、そして感情移入なしで得ることができる。ただ、社会制度をわかりやすく理解することはできるが、感情移入が少ないため視聴者側の興味を引きつけることが難しくなっている。

一方、「プロジェクト X」はヤマトの倒産の危機に立ち向かう人物（社長、社員）の立場に立ち、その軌跡をドキュメンタリー映像的に視聴者に提供する形式になっている。ヤマトが倒産の危機から脱しようとする過程をある人物の活動・努力を中心に、起承転結のあるストーリーに仕立てて説明しようとしている。視聴者はその人物はどのような政策を行ったのか、またそれはなぜなのかなどをストーリーのように理解することで1つの問題解決方法を得ることができる。しかし、これはヤマトの立場からしか物事を見ておらず、例えばヤマトになかなか免許をおろさなかった運輸省がどうしてそのような判断をしたのか、ヤマトが小口便専門にしたことで起きる郵便局への影響などを明示しておらず多角的なアプローチがなされていない。また、ストーリーのように示すことで視聴者の興味を引くことに長けているが、ヤマト＝善、運輸省＝悪のような構図が顕著になることや、視聴者にこういう生き方が素晴らしいという一種の価値注入をしてしまっている。

■ 問題解決の視点が異なる（個人の努力 VS 社会の仕組み）…板野南風

社会科の授業は小中高と学年があがるにつれて暗記科目という性質が濃くなっていくと思われる。しかし、「プロジェクト X」、「クローズアップ現代」の両番組（＝授業）からは暗記という側面はあまり見られず、むしろはじめに挙げた課題・問題をどのように解決していったかという道筋を教えることで、見る側の問題解決能力を伸ばしていこうとしている。しかし、2つの番組には大きな違いがある。

両番組を授業に見立てて考えていくと、まず前者は生徒に社会において自分が大きな困難に直面した時に乗り越えることの大切さを伝えようとしている。宅急便を例にとり、はじめにキーワードとなる言葉を挙げておいて授業の大まかな内容を知らせている。そして、課題提示を何度もしてそのたびに問題解決をしていく。また、ゲストとして体験した本人の話も聞かせるなど具体的にどのような苦労を重ねて解決に至ったかがよく分かるようになっている。一方、後者においては、問題を抱えた社会をどのように改善していくかが焦点になっている。授業方法としては、イギリスの失業問題を詳しく数値を出して具体性を出し、その問題を解決するための社会システムを説明したりと、細かく詳細にわたり社会の流れを解説している。ここから前者は1人の人間として社会でなにができるかを、後者は仕組みをどのように整えて社会をよりよくしていくかを伝えていこうとしていると考えた。こうして子供達には問題解決に向けて自分たちが挑戦心を持って解決に向かう力がついていくのだと思う。

■ 2つの番組を図式的に整理してみました…方川友理子

1. プロジェクトXの番組の流れ (例) 運送会社逆転のドラマ

OP キーワード・・・倒産の危機 社運をかけた小口便 全国翌日配達

①社員 加藤房男 国道一号線への憧れ 大口運送の減少→倒産の危機

社長 小倉昌男 小口運送へ 在宅注文→セールスドライバーへの抵抗
全国どこでも翌日配達→拠点不足

社員 加藤房男 宅急便・北海道支局へ→注文なし

②社員 加藤房男 真心をとどける⇒増える荷物→宅配困難(詳細な地図がない)
→天候不良・翌日配達困難

社長 小倉昌男 大口運送から完全撤退

社員 加藤房男 自ら地図作り⇒翌日配達

運送免許取得外地域からの注文→運輸省から許可がおりない

～フロア 加藤・福士 届けられなかった悔しさ・苦労体験談

③社員 福士 免許取得外地域⇒軽トラでとりにいく→過疎地の宅配はコスト高
生鮮品で町おこし=新鮮直送(個人へ速く安く)=宅急便

社員 築地光博 運輸省に抗議⇒過疎農村からの需要増⇒運送免許取得

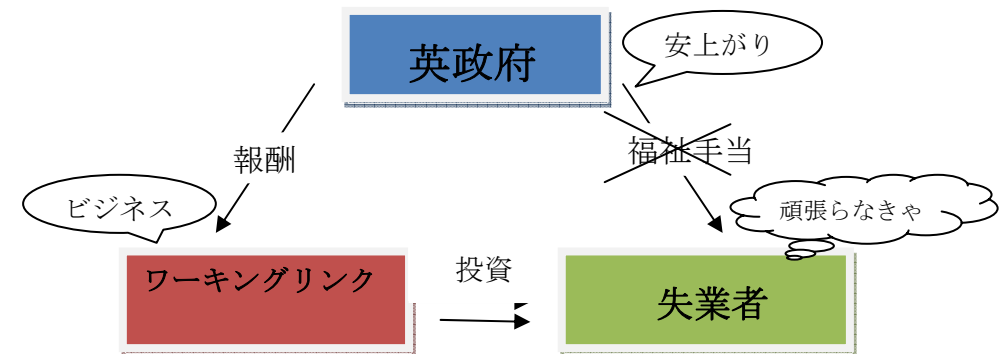
～フロア 加藤・福士 感動・真心のこもった荷物

ED 小口便は1兆円産業へ 物流革命

2. クローズアップ現代の番組の流れ (例) 失業者が半減 英国の挑戦

OP キーワード・・・ゆりかごから墓場まで→働くための福祉

- ① { マーチン・ハギンズ 失業者の保護 カウンセリング→投資→アフターケア
グリン・ウィリアムズ 再就職をめざす
i)ワーキングリンク=政民一体



マーチンの意見 ワーキングリンクの合理性

②具体的な投資	携帯電話	¥15000	} \100000	} ワーキングリンク利益
	服飾品	¥21000		
	交通費	etc...		
政府から成功報酬			¥500000	¥400000

- 具体的な支援 面接セッティング・練習
- ウィリアムの意見 社会貢献する喜び
- ③ゲストティーチャー 山本記者
 - 失業手当受給→就職活動を義務 100 万人が働くための福祉
 - 政府・企業・失業者誰も損をしない

プロジェクト X とクローズアップ現代を比較して

プロジェクト X		クローズアップ現代
人物中心 紆余曲折のドラマ	構成	事柄中心 制度の説明・具体例
感情的	登場人物	淡々と
立ちはだかる壁	対政府	政民一体

プロジェクト X とクローズアップ現代が子供に求める社会の視点

社会の視点・・・プロジェクト X	人の集合体としての社会	}	小→大
	人→社会		
	制度が成り立ったプロセス重視		
	個人の努力＞公的補助		
クローズアップ現代	社会の構成員としての個人	}	大→小
	社会→人		
	既成制度の働き重視		
	個人の努力＜公的補助		